

願 がん

生 しやう



令和5年7月  
第50号

念仏者の言葉

仏像を拝むひとはいが

仏さまに出遇う人は

少ない



私たちは日頃からお仏壇やお寺のご本尊である阿弥陀様などの様々な仏様に手を合わせています。仏さまに手を合わせると人の数だけ、その拝み方というものはあるかもしれませぬ。しかし仏さまを拝むということは、一方的に拝むだけではなく、仏さまに出会っていかねばなりません。私たちが考えている仏さまというものは、恐らく私たちの願いを叶えて下さり、私たちの悩みを解決して下さいようないがたい存在ではないかと思ひます。確かに様々なご利益をうたつていゝる仏さまが存在します。しかし仏さまはそもそも私たちの悩み苦しみの原因が何なのかを果てしなく長い時間をかけて考えました。その結果が私たちの「無明」と「執着」に行きつきます。「無明」とは自分中心の価値基準の世界に閉じこもり、何が本当なのか分からないことです。その結果、自分の望む条件でしか現実を受け入れることが出来ませぬ。「執着」とは思い通りにならないものを、どこまでも思い通りにしたい心です。このように私たちはどこまでも自分中心の狭い世界に閉じこもり、悩み苦しみ続けています。もしも仏さまが私たちの都合を叶えてくれるのであれば、私たちの「無明」と「執着」は更に増長するだけです。仏さまが私たちに救いたいということ、私たちが意味のない価値基準の世界に閉じこもり、意味のない思いに行き詰まっていることを教える事です。条件なしにありのままの私が尊いと教えられ、私たちの心が解放されていく事が仏さまの願ひです。

## 祠堂経会のご案内



今年も祠堂経会しどうきょうかいの季節になりました。祠堂経会しどうきょうかいとはこれまで亡くなられたお寺のご門徒の方々の法名を一同にお飾りし、読経を行い讃嘆供養さんたんくようする仏事です。同時にこの一年間に亡くなられたご門徒の物故者法要を勤めます。門徒の皆さまのご先祖の法名を一同にお掛けするのはこの行事だけです。是非お参りください。

今年も昨年同様に感染対策を行いながらお齋とき（食事）の提供を行います。亡き人への思いを込めた大切な仏事です。どなたでもお誘い合わせてお参りください。

日時 七月十五日（土）

時間 午前九時半〜 お勤め・法話

午後十三時〜 お勤め・法話

法話 石川正穂師（富山市 玉永寺住職）

午後の法話は当寺副住職が行います

お齋とき（食事）を準備しています。感染対策を十分に行いますので、是非お参りください。

## 海外からの団体参拝



先日お寺に海外からの団体参拝によって、多くの真宗門徒の方々が来寺されました。今回来寺されたのは海外から西本願寺で勤められている慶讃法要きやうさんに参拝する為に来日された方々で、親鸞聖人の足跡をバスで巡るツアーによって来寺されました。当日は二十六名の方が来寺され、国籍はアメリカ、ブラジル、イギリスなど多岐にわたりました。当寺の親鸞聖人との関わりの由来を通訳を通じてお話すると、とても真剣に聞いて下さり、その後はお寺で運営しているテンプル英語スクールの授業を見学されました。当日は塾生だけではなく近所の子どもたちも噂を聞きつけて集まり、海外の門徒さんとの交流を楽しみました。子どもたちが頑張って英語で話しかける様子が微笑ましかったです。門徒さん達も交流をとっても楽しまれた様子です。



## 同朋大会



六月十七日に二十数年ぶりに、当寺を会場として同朋大会が開催されました。同朋大会とは一年に一度、著名な講師を招いて仏さまの教えを聞く集いです。当日はたくさんの方々が集まり、ほぼ満堂となり大阪よりお越しの門井齊先生かどいひさしのお話を聞かせていただきました。その時のお話で心に残った事は、「私たちはつねに考えられた自分、自分だと思っている自分を自分だと勘違いしているのです」という事です。自分がわからなければ自分の本当の願いもわかりません。自分というものは私たちが思う以上に深く尊い存在です。それは数限りない関わりの中にある「共感の世界」を生きている私です。何かが出来るといふ条件付けで尊いのではない、そのままで尊いのちを生きている存在です。お話を聞かせていただき、自分に向き合う事の大切さを教えられました。



お寺の藤の花



富山別院で法話しました



同朋大会①



境内の数珠掛桜



お寺の梅で梅シロップ作り



同朋大会②

## お寺の日常風景



## 坊守日記



先日京都の本山・東本願寺で娘の唯花が得度式を受式しました。得度式とは僧侶としての第一歩の儀式です。私たちの真宗大谷派では親鸞聖人が得度された年齢と同じ九歳から得度することが出来ます。得度式の前に富山別院でお勤めの練習やお話を聞いたり、本人にとって学び深い研修だったと聞いています。娘も大きくなったもので、私たちがお寺のことや英語教室のことでどうしたらいいかと悩んでいると、いつも「こうしたらいいんじゃない」と意見を言ってくれとても頼もしく思えます。最近は学校から帰ってくると、英語のレッスンに参加して下級生に色々なことを教えてくれたり、声をかけてくれるようになりました。私たちの知らない所で様々な経験を通して成長しているなと最近つくづく感じます。



東本願寺での得度式にて

## 編集後記



この寺報「願生」も今回で節目の第五十号を迎える事となりました。いつも読んでいただき、ありがとうございます。発行して十四年目になりますが、これまでに「仏事のQ&A」、「誌上法話」、「脳トレ」、「精進料理レシピ」など試行錯誤で様々な企画を掲載してきました。これら全ては読んでくださる方に、少しでも興味をもっていただく為に考えてきました。いつも一生懸命に考えながら制作しますが、時折「読んでくれてる方は本当にいるのだろうか」と不安になり、心が折れそうになることもあります。しかし門徒さんのお宅にお参りに伺った時などに、「いつも読んでいるよ」などと声を掛けてくださったり、感想を聞かせていただくと、その一言で何とか頑張れています。これからも皆さんに興味を持って読んでいただけるように頑張っていきますので、是非応援お願いします。

派 大谷 真宗 親鸞 聖人の 三本 寺

## 辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

@temple\_english\_tokuhoji



今後の仏教講座の予定は8月10日(木)13時半～です。

9月10日(日) //

毎月誰でも法話が聞けるお寺です。気軽にお越しください。